

第3回

失敗しない大学院の選び方(上) ——百花繚乱

あお くに まさ やす
青谷正妥
京都大学留学生センター

混沌の海

来年の秋に application を提出する人は、大学院の品定めを始めてください。「例外のないルールはない(There is no rule without an exception.)」は受験英語の定番ですが、アメリカの大学院教育は「例外がルール(Exception is the rule.)」や、「ルールはない(Anything goes.)」というほど多様です。客寄せに熱心なアメリカの大学院では、詳細情報の提供が常識であり、Web でも留学生用の情報がこと細かに研究科ごとにてています。留学生獲得が死活問題の理系大学院は、外人部隊予備軍をとくに手厚く扱うのですが、それが情報過多につながることもままあります。この混沌たる情報の海を、北島康介選手のように「めっちゃ、気持ちえ〜っ!!」と泳ぎ切る体力を、まずつけましょう。

日本の大学生は、アメリカの大学についての知識が乏しいのが普通ですよ。しかも、基本的に東大・京大が中心になっている日本と、有力大学院が百花繚乱のアメリカでは、まったく事情が違います。エンジニアリング一つを見ても、材料工学なら MIT や Northwestern 大学、環境工学なら Stanford 大学や UC Berkeley、化学工学なら Minnesota 大学、土木工学なら Illinois 大学と、まさに多種多様です。さらに、先生や留学経験者にアドバイスを仰いでも、全体を見渡したうでの助言でなければ、かえって misleading になることもあります。やはり、自分でも積極的に調べるしかありません。ただし、すべての大学院の Web site をしらみつぶしに見るわけにはいきませんので、ステップワンとして、先生や先輩の助言に加えて大学院ランキングの利用をお勧めします。

大学院ランキングも目白押し

日本には予備校の偏差値などによるランキングはあっても、新聞社や団体が大学のランキングをしたりすることはほとんどありません。しかし、アメリカには偏差値や全国模試といった基準が皆無だからでしょうか、あるいは“*We are number one!*”と叫ぶのが大好きな国民性のなせるワザでしょうか、大学や大学院のランキングがいくつもあります。

Geoff Davis の個人 Web site

(National Research Council のデータによる)

<http://www.phds.org/rankings/>

数学者で元マイクロソフト勤務というだけあって、とても見やすくてしっかりしたつくりの Web site です。National Research Council の研究ランキングのレポートに基づいています。なお、National Research Council の Web site (<http://www.nap.edu/readingroom/books/researchdoc/>) に行くと、データを download したりできるのですが、慣れていないと見にくいので、僕は George Davis さんの方をよく見えています。

雑誌“U.S. News & World Report”のランキング

http://www.usnews.com/usnews/edu/grad/rankings/rankindex_brief.php

National Research Council がその名のとおりリサーチ重視の傾向をもつものに対し、こちらは学生の教育のための体制がよく整っているかとか、卒業生の給料はどうかとか、必ずしも研究に直接関係しない要素も盛り込まれています。

National Association of Graduate-Professional Students (NAGPS)のWeb site

<http://survey.nagps.org/index.php>

The National Academy of Sciences, the National Research Council, the Association of American Universitiesなどが推奨する博士課程のあるべき姿(best practices in doctoral education: 各機関独自のrecommendationがでています)に照らした評価を見ることができます。

The CenterのThe Top American Research Universities

<http://thecenter.ufl.edu/research2003.html>

研究費・寄付・受賞状況・博士号の数・入学者のSATのスコアなどで、専攻ごとではなく、大学全体を評価しています。270頁くらいのレポートで、それぞれの大学の全体としてのprofileがとてもよくわかります。たとえば、全体では25位のCaltech(California Institute of Technology)が、SATスコアでは第1位だとか、面白いです。

“The Gourman Report: A Rating of Graduate and Professional Programs in American and International Universities”

Jack Gourman氏の本で、ときには批判を受けながらも、草分けの出版物として版を重ねています。日本語訳もあります。これに関する笑い話は今月の囲み記事でどうぞ。

学生のアンケート(surveys)に基づいた評価

<http://grad.studentsreview.com/>

ランキングというよりは、生徒が自分の大学をどう見ているかを知るのに有用なサイト。厳格な分析や統計処理を忘れ、学生たちの証言の結果を調べてみるのもよいでしょう。

鵜呑みにしないで!

ただし、いくつか大切な注意事項があります。

- 必ず評価基準を考慮してください。たとえば生徒からのフィードバックと先生の力量査定では、parameterの性質がまるで違いますね。ですから、Web site間でランキングに整合性がなくても、惑わされないことが肝要です。
- 日本のようにはっきりとした序列のないアメリカで、ランキングにこだわるのは愚の骨頂です。Top5からときにはtop10くらいは、横一列と考えるべきです。たとえば数学



乱金愚 (ranking): 京大の偉業

“Who’s number one?”がthe quintessential question (究極の疑問)といわれるアメリカでは、大学ランキングに踊らされる親たちが続出し、とくに授業料の高い私学は毎年発表されるランキングに一喜一憂です。「素直に資料をだしたら格付け機関が手加減してくれる」、「いや、だしすぎると化けの皮がはがれる」とにぎやかなこと。果ては、金銭の授受疑惑まででる仁義なき戦いが続いています。学者はともかく巷では、評価の基準や内容の信頼性より影響力の方がどんどん高くなる、ランキングのこの皮肉。

アメリカ国内の大学でこれですから、国外の大学のランキングとなるとひどいものです。既出の“The Gourman Report”の国外の大学だけのランキングで、東京大学は43位と低迷ですが、43位といえば京都大学はそれ以上に凄い! Gourmanさんによると、「日本の医学部」のなかで1位は日本大学、京大医学部は堂々の43位です。本当です!

他方、最近よく話題になる上海交通大学のAcademic Ranking of World Universitiesでは、東京大学は世界で14位、京大は21位です。最後に、Asiaweekは1999年のアジアの大学ランキングで1位を東北大学、2位を京都大学にしましたとさ。めでたし、めでたし。疲れる…。

だと、U.S.NewsではMITが1位ですが、National Research Councilのランキングでは、UC Berkeleyが1位でMITは3位以下です。これでわかるでしょう?

- プログラム全体の評価と個々の先生の評価とは違います。トップ校の無名の先生、下位の学校でも高名な先生、そういう兼ね合いを考えねばなりません。

以上に注意さえすれば、ランキングはa bird’s-eye view(全体の鳥瞰図)を得て、留学先としての候補の数を絞るのに大いに役立ちます。

ところで、そろそろ今年のapplication formsがWebに掲載されていますので、来年に備えて覗いてみてください。

では、「お行きなさい」。